安心をすべての人に届けたい

well-being通信

well-being（ウェルビーイング）：幸福、健康で満たされた状態

公式ホームページ
http://sakuraisuguru.jp/

北本市議会議員
桜井すぐる

2025年
2月号②

SUBARU北本工場がトランスアクスル製造拠点に
能登半島地震から1年、災害ボランティア参加報告

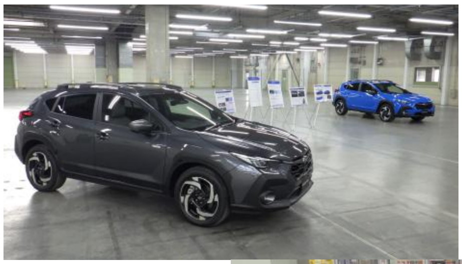
SUBARU北本工場は1995年4月に大宮から移転し、発電機や芝刈機などの汎用エンジンを製造していましたが、2017年9月に汎用エンジンの製造を終了。2019年3月には自動車のエンジンの製造も終了し、その後は物流倉庫として使われていました。北本市の人口一人当たりの法人市民税収入は、2014年度から2016年度は県平均を上回っていましたが、2017年度以降は県平均を大きく下回りました。SUBARUの撤退が大きく影響したと思われます。

しかしSUBARUは、2022年5月に発表した国内生産体制再編計画で、次世代e-BOXERトランスミッション（トランスアクスル）の製造を北本工場に移管することを発表。同年12月からリニューアル工事を開始し、2024年秋から本格的に製造を開始しました。トランスアクスルはHEV（ハイブリッド）の動力伝達機構です。自動車メーカーはEV（電気自動車）への移行を進めていますが移行スピードは遅く、当面はHEVへの乗換えが中心になると見込まれています。SUBARUのHEVのトランスアクスルは全て北本工場で製造されており、とても重要な工場です。

北本工場は昨秋から本格稼働していますが、今はまだ昼間のみの稼働です。今年3月からは昼夜交代制になり稼働時間を増やし、さらなる増産に取り組みます。昨年11月時点では239人だった従業員数は、今年2月には306人まで増加しています。北本市としても税収の増加が期待されます。

トランスアクスルは、現在はクロストレックに搭載されていますが、クロストレックの先行予約では予定台数を上回る申し込みがあったとのこと。今年4月には新型フォレスターの先行予約が開始されますが、すでに期待が高まっています。北米での人気も高い車種で、今後もさらなる需要の増加が見込まれます。

また、北本工場はSUBARUの最新鋭の工場として、従業員が働きやすい工場づくりを進めています。全館空調により快適性を高め、エルゴノミクス評価により身体に負荷がかかる業務の改善を進めています。ホワイト物流にも取り組んでおり、トラックドライバーによるフォークリフトでの荷下ろし作業を廃止しました。北本工場で培ったノウハウは現在建設中の大泉新工場（群馬県）にも活用されるとのこと。物流倉庫から一転、最先端のファクトリーとして北本工場が注目を集めています。地域に根差し、市民にも末永く愛される工場になってほしいと願っています。



（写真提供）
SUBARU
北本工場

上：クロストレック

右：トランスアクスル

SUBARU車は安全性能が高いことでも知られています。2023年度には自動車の安全性能を比較評価する自動車アセスメント（JNCAP）において、クロストレックとインプレッサが最高評価を獲得しました。また、販売台数100万台あたりの死亡・重傷交通事故件数（2022年）は、国内メーカー平均157台に対しSUBARUは89件です。

能登半島地震・水害 災害ボランティア参加報告

令和7年2月1日（土）、2日（日）の2日間、能登半島地震・水害の災害ボランティアに行ってきました。通算4回目の現地入りです。

寒くなりボランティア参加者が減少しているためか、年明け後、石川県のボランティア募集が週末に限定されました。募集人数も減っており、すぐに定員が埋まってしまう状況です。

また、昨年11月に利用した能登空港隣接のベースキャンプ（無料）が1月19日に閉鎖されたため、今回は輪島市内の民宿に宿泊しました。民宿は部屋数が少なく予約が困難です。大型ホテルは料金が高く、連泊に不向きです。冬場になってボランティア参加のハードルが一段と高くなったと感じています。

初日は水害被害の大きかった輪島市町野町で 民家での泥の撤去作業

輪島市町野町は、輪島市から東へ約20キロ、車で約40分の位置にあります。地震被害だけでなく、昨年9月の水害による被害が大きかった地区です。海岸沿いの国道が通行できるようになりアクセスしやすくなりましたが、解体や泥の撤去を待っている住居が多く残っています。

初日は民家での泥出し作業でした。民家の隣が沢になっており、水害で多くの土砂が床上まで流れ込んだようです。8人のチームで家屋周辺の泥を撤去しました。庭先はかなりきれいになりましたが、床下の泥までは撤去できず、翌日以降の継続案件となりました。

（左：庭先に積もった泥、右：撤去作業後）

（左：若桑川、右：鈴屋川五里分橋付近）

二日目は町野町唯一のスーパー もとやスーパーで活動拠点の整備

2日目も町野町での活動でした。町唯一のスーパー（コンビニはありません）・もとやスーパーでの活動です。もとやスーパーは地震後も町民のために無休で営業を続けてきましたが、昨年9月の水害で1m以上の浸水被害を受けました。それでも不屈の闘志で11月末に営業を再開しました。1、2月は町野町ボランティアセンターが閉鎖されていますが、泥出し等のボランティアの需要は依然として多いことから、もとやスーパーでは仮設トイレを設置したり、宿泊用に避難所用テントを設置するなどして、ボランティアや住民の活動拠点として重要な役割を果たしています。この日の活動では、女性用スペースやシェアキッチンの整備をお手伝いしました。

（左：休憩・宿泊スペース、右：女性用スペース）

もとやスーパーさんの休憩・宿泊スペースは無料で利用できます（お気持ち方式）。トイレは仮設ですが水洗式で清潔に保たれています。スーパーなので食材は豊富にあり、シェアキッチンで調理もできます。テント（50張）がありプライベートスペースが確保できます。こたつ、布団・毛布、洗面所もあります。入浴施設はありませんが、車で30分ほどのところに日帰り入浴施設があります。石川県が募集している現地集合タイプの災害ボランティアに参加する場合の宿泊場所として、有力な選択肢だと思います。

昨年5月から被災地の変化を見てまいりました。幹線道路や仮設住宅の整備、全壊住宅の解体が進んでいることは間違いありませんが、被害があまりにも甚大で、公的な災害復興はもちろん民間ベースの支援もまだまだ不足しています。気候が暖かくなればボランティアの募集も増え、参加しやすくなると思います。被災地に直接行けなくても、募金などによる支援もできます。北本市民の皆さまにもできる形でのご支援をよろしくお願いいたします。

発行者：桜井すぐる後援会（代表：桜井 卓）
住　所：〒364-0034　北本市高尾1－166－6

元埼玉県職員。52歳。会派：緑風会 所属。
令和元年5月～北本市議会議員（現在2期目）
健康福祉常任委員会、埼玉中部環境保全組合、
新たなごみ処理施設等建設検討委員会委員

お困りごと、お気軽にご相談ください
090－9389－3572（桜井携帯）
sakuraisuguru.kitamoto@gmail.com

インスタグラムはじめました！